

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2013年1月25日発行 第60号

バンコク在住の西川会長から

タイでは幼稚園から大学までほぼすべての学校で制服着用が義務付けられています。小中高校生あたりだと、男子は白いシャツにベージュか黒の半ズボン、女子は白いブラウスに紺か黒のスカートと、全国どこへ行っても同じような制服を着た子どもを見かけます。これは頭髪についても同様で、どこへ行ってもサイドをごく短く刈り上げたスポーツ刈りの男の子、ワカメちゃんのようなオカッパ頭の女の子ばかりが目につくところからして、これはおそらく国レベルで定められたものではないかと思えます。

私も以前、仕事でバンコクの中高校に通っていたことがありますが、そこでも状況は全く同じでした。そこは男子校だったので、生徒は全員白いシャツにベージュの半ズボン、ヘアスタイルは短い刈り上げと決まっていた。それでも、生徒たちはその中でなんとかお洒落を楽しもうと、ギリギリまで髪を伸ばしてみたり、前髪だけ伸ばしてジェルをつけてみたりするのです。それはそれで私から見ると、非常に微笑ましかったのですが、学校としてはやはり放置はできず、生徒の気が緩んだところを見計らって抜き打ちの頭髪検査が行われるのでした。頭髪検査といっても、注意して終わりといった生半可なものではなく、校門で待ち構えた先生たちが違反した生徒を捕まえて強制的にその場で髪を切ってしまうのです。しかも、髪を綺麗に切り揃えてあげるようなことはせず、バリカンでおでこから後頭部まで一直線に切り込みを入れるという大胆なものでした。生徒は正に見せしめのようにモヒカン刈りを逆にしたようなおかしい髪型のままその日一日を過ごすことを余儀なくされ、そして、授業のあとはそのまま帰宅の途につかなければならないのです。今の日本なら大問題になりそうな荒っぽいやり方に初めて見た私はかなりの衝撃を受けたのですが、当時のタイではそんなことは当たり前のようで、特に問題視する声は聞かれませんでしたし、それ相応に歳を重ねた私も子どもの気持ちはつゆ知らず、清潔感あふれるヘアスタイルを維持するのに少々手荒い真似をしても致し方ないとすら感じていました。ところが、先日そんな彼らが大喜びしそうなニュースが飛び込んできました。

現職の大臣がタイの学校の頭髪規則を撤廃すべきと発言したのです。この発言は、かなりの物議を呼び、いろいろなテレビ番組でも取り上げられ、日常生活でも話題に上りました。最終的にどのような形に落ち着くかはわかりませんが、賛同者がかなりいたことから社会全体が子どもにより自由を与えようという方向に動いていることは間違いなさそうです。

こうした問題や、昨今の受験の過熱を見ていると、タイの学校問題は日本の20年、30年後を追いかけているようにも思えます。そういえば、FREEのムさんが以前こんなことを言っていました。昔はまったく聞かれなかった「いじめ」が数年前からキャンが支援するタイの田舎の学校に通う子どもたちから聞かれるようになったと。時代とともに社会が変容し、それに伴って学校や子どもたちの生活が変わっていくは仕方のないことですが、追いかける必要のないものはどうか追いかけないでほしいと思わずにはいられません。

西川弘達

報告 1

～図書支援プログラム～

岐阜県可児市主催の「手作り絵本大賞」コンテストは今年 15 回目をもって最終と決まりました。今年はタイの高校生の 2 作品と小学生の 1 作品の 3 作品を応募しました。そして 13 回大会に続いて応募 3 作品が「審査員奨励賞」として入選いたしました。



作品展示会の最終日、昨年 11 月 11 日日曜日に「可児市広見公民館ゆとりピア」にて表彰式がありました。タイからの 3 作品を代表してキャンスタッフの「藤井 佳奈」が表彰式に出席しました。以下感想文を掲載します。

「第 15 回手作り絵本大賞表彰式の感想」

報告・藤井佳奈

11 月 11 日、岐阜県可児市の「花のまち可児・手作り絵本大賞」の表彰式がありました。今回応募したタイの子供の絵本は 3 作品で、その 3 作品が「審査員奨励賞」に選ばれました。そこで表彰式には代理として、運営委員から藤井と大矢が参加しました。それぞれの作品や受賞については、ネットワーク通信 59 号に記載していますので、参照ください。



その日の可児はあいにくの雨模様で肌寒かったのですが、可児市の実行委員の方々が笑顔で出迎えてくれ、明るい気持ちになりました。受賞者への説明会が始まるまでに時間があつたので、会場に並べられた絵本を見ることにしました。とてもたくさんの応募作品があり、手づくり感あふれる本から、既出版している本と、見まがう装丁の絵本まで様々でした。また作者の方は 6 歳の児童から 60 歳を超える高齢の方まで、実に応募者の幅が広いのがとても印象的でした。

表彰式前の説明会では受賞者の方々が顔を揃え、作者でない私は、恐縮してしまいました。作者の皆さんも緊張した様子でした。私の隣には「可児っ子賞」を受賞した 8～10 歳の作者さん達が座っていて、保護者の方が近くにいないくても、どの子もちゃんと着席して話を聞いているので、感心しました。

授賞式ではまず教育長や実行委員の方の話を聞きました。実行側の方々が絵本大賞をととても楽しみに

されているということが伝わってきました。キャンの活動に関しては「毎年タイから作品の応募を嬉しく思っている。橋渡しになっているボランティアの方の協力があってこそ出来ることで、続けていって欲しい」という内容の言葉をいただきました。可児市の絵本大賞は今回が最終ということもあり、皆さん一層思い入れが強くなっているようでした。

頂いた大きな賞状はカラフルな花の模様で縁取られていて、とても奇麗でした。子供審査員の学生が首に掛けてくれたメダルは手づくりで金色の土台にバラのモチーフが付いていました。書いてある日本語が読めなくても、これならタイの子供達は喜ぶだろうと嬉しい気持ちになりました。実は私も自分が頂いたような気持ちになって、嬉しくなっていました。

表彰式の後には交流会がありました。受賞者の方々がそれぞれの絵本のストーリーや、制作の難しかったところ、楽しかったことなどを話してくれました。小学生、大学生、主婦、仏具職人、保育に携わる方、引退された方、いろいろな方がいましたが、みなさん制作を楽しんでいるということは共通していると思いました。タイの子供達の3作品はたのしんで作っているという点では、やはり共通していることと、交流会の中で感じました。

タイの子供達の絵本には、お話や絵の中に日本には無い文化や習慣がよく現れていると感じます。タイの子供達から見れば、日本の絵本にもそういった日本らしさを感じているのかも知れません。直接出会ったり触れたりとは違う、このような緩やかな文化間の交流も立派に国際交流といえるでしょう。これは絵本大賞表彰式に出席して私が気づいたことでした。



「ちょうちゃんの光」絵本の完成



第13回手づくり絵本大賞コンテストで初めて「奨励賞」入選を果たした「ちょうちゃんの光」作品を絵本出版することで、2011年より取り組みました。絵本はいわゆる、仕掛け絵本で、絵を動かして、2場面に変化させます。とても精巧な仕掛けです。

日本の絵本出版会社に製作を打診すると、とても精巧な仕掛けで大量生産は不可能。との返事で、日本での製作を諦め、タイでの製作を目指しました。バンコクで製作の目処が立ちましたが一昨年のタイ洪水災害で予定が1年遅れました。ようやく昨年暮れ、船便で名古屋港に到着。名古屋税関事務所の荷物検査で開封したところ、ショッキングピンクのハードカバーので、スッシリと重い絵本が現れると、居合わせた職員たちが出来栄を誉めていました。



届いた絵本は約束していた、可児市教育委員会に30冊寄贈しました。可児市内の小学校と図書施設へ配布くださいます。

他にキャンの活動を支援くださる個人・団体へ寄贈します。

残りは会員の皆様に1冊1,500円(送料込)でお送りします。購入希望の方は事務局までご連絡ください。部数に制限がありますので先着順とさせていただきます。

先日、可児市教育長よりお礼の手紙が届きました。ご紹介します。

「お礼状」

新春とは言いながらまだまだ寒い日が続きますが、貴団体には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、市教育行政の各般にわたり格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。またこの度は本市の小学生のために多数の絵本のご寄付を賜り、心より感謝申し上げます。ご寄付いただきました図書は、ご意志に沿いまして各小学校と市立図書館で活用させていただきます。ここに、この度のご厚情に対し書中をもちまして御礼のご挨拶を申し上げます。

平成25年1月21日 キャンヘルプタイランド 様

可児市教育長 大杉 一郎

報告2

～奨学金プログラム～

奨学金プログラムの活動に翻訳ボランティアの支援は誠に大きな存在です。

2012年度に奨学生から届く個人調査表と、ドナーに宛てた手紙等、タイ語の資料400点は、在宅ボランティアと名古屋事務所で開催する翻訳会で処理します。

翻訳した書類は年内に支援して下さるドナーにお届けすることで、奨学金プログラムが完結いたします。

在宅ボランティア様にはメールでの頻繁な交信、翻訳会での作業は名古屋事務所へ出向いての翻訳作業をお願いしています。

2012年度の在宅ボランティア様には延べ20人の皆様に150点ほどの手紙を翻訳いただきました。翻訳会には延べ45人のボランティア様に参加をいただき、250点ほどの書類が翻訳されました。

翻訳会では在日のタイ人も毎回参加して、おしゃべりも弾んでにぎやかに翻訳作業を進めます。

このような活動が毎年行われることで、奨学金プログラムは支えられています。

タイの子供たちと、ドナー様とのコミュニケーションを取り結ぶ皆様の活動はキャンには欠く事の出来ない存在です。皆様のご支援に心より御礼申し上げます。



翻訳会に参加して

藤井 佳奈

昨年から運営委員になったため、今期の奨学金プログラムで初めて翻訳会に参加しました。翻訳会ではタイ人の方と協力して、奨学生の調書をタイ語から日本語に翻訳します。8月、10月、11月にあった3回の翻訳会の内、8月と10月の二回に参加しました。実際に翻訳会に参加するまでは、初めて会うタイ人の方とうまく話せるだろうか？馴染めるだろうか？という心配があり、単にやったことの無いことをするという緊張も相まって、消極的になっていました。

いざ翻訳会が始まってみると、思い悩むような難しいことは無く、とても和やかな雰囲気での会でした。翻訳会にはキャンからのメンバーの外に結婚して日本で暮らしているタイ人の女性や、タイ語を勉強したい日本人の会社員の方などが参加していただきましたが、私はタイから日本の大学に留学中の学生と一緒に翻訳作業をしました。学生は互いに知り合いで、和気あいあい、「これはどういう意味？」「どうやって書くんだった？」と互いの知識を補いながら、翻訳をしていました。みんな、とても積極的に取り組んでいましたが、作業一辺倒にならないのが彼らの良い所で、タイ語で冗談を言っては笑い合ったりしていました。日本語でも色々と言合って、久しぶりに大笑いしました。彼らの笑顔と楽しそうなおしゃべりで、いつもはちょっと暗い気のする事務所がぱっと明るくなるようでした。キャンのワークキャンプでタイに行ったときも、タイの人たちのお陰で毎日笑っていたなと懐かしく思い出しました。

驚かされたのは、日本人でも「どう書くんだった？」とってしまうような漢字を彼らが知っていたりすることです。日本語を勉強した期間は然程長くないらしいので、彼らの努力には感心してしまいました。私も翻訳する途中でこれは「タイ語でどう言うの？」と質問して、少しタイ語の勉強にもなりました。また、日本語では表現するのが難しいような言葉に出会ったときには、日本とは違うタイの文化を知ることが出来ました。

おしゃべりしながらも、調書はどんどん翻訳されて、時間もあっという間に過ぎました。私たち

はメールアドレスの交換の代わりに、facebook の友達になってお別れしました。私は緊張していたのが嘘みたいに、たくさん笑って、元気になってその日の作業を終えました。2回の翻訳会はとても楽しい時間だったので、来年度も翻訳会には積極的に参加させていただこうと思います。

報告3

～給食プログラム～

平成 23 年度はタイの洪水の影響により給食プログラムが実施できませんでした。その代り、24 年度は例年の倍の 8 校を支援しました。

	学校名	場所	生徒数	教員数
1	バン・サンパプアイ小学校	ターク県サムガオ郡	33	3
	プロジェクト	無農薬野菜の栽培支援		
2	バン・パックワン小学校	ターク県バンターク郡	45	7
	プロジェクト	無農薬野菜栽培、養豚支援		
3	バン・シーキリラック小学校	ターク県ワンチャオ	259	14
	プロジェクト	カエル養殖の支援		
4	バン・ソッポン小学校	メーホンソーン県ムアン	140	10
	プロジェクト	マッシュルーム栽培、養鶏、魚養殖		
5	バン・パヤーン小学校	メーホンソーン県パイ	100	8
	プロジェクト	足るを知る経済（無農薬野菜、マッシュルーム栽培、養鶏、カエル養殖、魚養殖、コーヒーの木栽培）		
6	バン・ワナルアン小中学校	メーホンソーン県パンマパー郡	292	17
	プロジェクト	マッシュルーム栽培支援		
7	ワット・ノンサムラーン（プラチャーサマッキー）小学校	ロイエット県ムアンロイエット	97	8
	プロジェクト	魚養殖		
8	バン・クアン小中学校	ロイエット県チェアックワン郡	338	20
	プロジェクト	野菜栽培、魚養殖		

報告 4

～建設プログラム～

「バン・メーガオ学校建設プログラムの実施決定」

NT 通信 59 号でもお知らせしましたように、千種ロータリークラブの記念事業として一昨年より建設プログラムの資金獲得に向けて取り組んで参りました。

ロータリークラブの本部に対して、国外の人たちに対する支援事業として、教育環境整備の為に学校建設資金助成を申請することで、タイのロータリークラブとの共同事業を条件に取り組んで参りましたが、昨年 12 月暮れに、申請期限の時間が足りない事が判明して、今年度の支援申請を断念することとなりました。千種ロータリークラブからの支援が今年度困難な事が判明して、急遽プログラムの実施可否を検討した結果、NT59 号で紹介したように、プログラム実施に対する緊急性、必要性の最も高い「バン・メーガオ学校」建設プログラムをキャンヘルプタイランドの単独事業として実施することと決定しました。

プログラムは 2013 年度の建設プログラムとして総会で承認を受け、工程表に則り実施されます。皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。事業内容の詳細につきましては NT61 号にてご報告いたします。

お知らせ

～平成 24 年度総会のご案内～

会員の皆様のご支援のおかげをもちまして、平成 24 年度も無事に予定事業を終えることができました。つきましては下記の日程にてキャンヘルプタイランドの総会を行いますのでご出席をお願い致します。また、ご都合の悪い方には委任状の署名をお願いしておりますのでそちらも合わせてご確認ください。議案書・委任状などは 3 月初旬に発送予定です。

記

日 時：平成 25 年 4 月 7 日（日） 午後 1 時～

場 所：キャンヘルプタイランド事務所

※ 総会終了後、懇親会・食事会を予定しておりますのでよろしければそちらもご出席ください。

以上

募 集

～チェンマイ「希望の家・カサロンの家」海ツアー～

チェンマイの「希望の家・カサロンの家」の子どもたちを海へ連れていくツアーを開催します。初めて海を見る子ども達と海水浴をしたり観光をしたりしてのんびり楽しむツアーです。ワークキャンプのように労働作業はありませんので何方でも気軽に参加していただけます。興味のある方は事務局までご連絡ください。

日 程：3月17日（日）～3月22日（金）

場 所：タイ王国チョンブリー県のビーチ

参加費：30,000円（航空券が別途必要）

※ 3月17日の夕方にバンコク国際空港集合です。

※ キャンヘルプタイランドで航空券の手配もお手伝いいたします。

申し込み締め切り 2月16日

運営委員会

(2012年11月～2013年1月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	11月	事務所	翻訳会、
運営委員会	12月	事務所	千種ロータリー記念事業について
運営委員会	1月	事務所	海ツアーについて 総会について

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

2年ぶりにタイへ行くことになりました。山岳部少数民族の子ども達を海へ連れて行きます。

子どもの頃はすべてが初めての体験ばかりで、いろいろなものに感動していましたが、大人になるとそういう感動は本当に少なくなってしまうました。

でも、海外旅行はそういう感動体験ができる数少ないレジャーですね。

海ツアーは年齢や体力は関係ありません。皆さんも一緒にいかがですか？

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.60>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2013年2月10日

住 所 〒450-0003

名古屋市千種区名駅南2-11-43

NPOステーション内

Tel & fax 052-566-5131

(OPEN: 土曜の13～16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>